

小田島民芸所

関 恵子さん

1956年、恵子さんのお父様が始められ、お母様、恵子さんへと継ぎ、現在3代目。忍び駒、鹿踊、金のべこっこ、張り子の干支をひとつひとつ手作りしています。民芸品とは一つ一つ違う表情や形をみせる一点もの。祈願や願掛けの他、土地の風土も感じられるよう、皆様にめでられるように、丁寧に歴史を継ぎながら想いを込めて創っています。

和紙張り子の十二支



十二種類の干支に託し時を刻み、福運を運んでくれる縁の深い干支人形です。



忍び駒



縁結びや子孫繁栄、五穀豊穰などを祈願して、藁で作った馬に色布や鈴等を飾り付けています。昭和41年、忍び駒のお年玉郵便切手の絵柄モチーフになりました。

鹿踊



岩手県の無形民俗文化財指定にあたる、民族舞踊の太鼓踊りを和紙(張り子)で表現しています。

金のべこっこ



古来岩手(南部藩)が金を産出し栄えたとき、砂金や塩を運搬していた南部牛がモチーフで、幸運と商売繁盛のマスクットです。

小田島民芸所 花巻市材木町 10-20
Tel : 0198-23-4856



公式 HP

花巻の魅力が満載！伝統工芸についての記事も多数掲載されております。



まきまき花巻

<https://makimaki-hanamaki.com/>

花巻の魅力や取り組みを市民ライターが発信！
あなたも市民ライターになりませんか？



花巻市地域おこし協力隊平川優が編纂しました。

2022年4月花巻に移住。5月より伝統工芸分野におけるシティープロモーションをテーマに活動を始めました。花巻の魅力ある伝統工芸品を広く知っていただく活動の一環として、地域の方からさき織りを教わり、技術や文化の普及・継承に力を入れています。



花巻市地域おこし協力隊
公式 Facebook



Instagram
@HRAHIRA_YUKOM

Photo by 花巻市移住コーディネーター・菅崎小夏

花巻の伝統工芸

Vol.1

南部系こけし

佐藤こけし 佐藤忠雄さん 花巻市中根子川前 2-2
Tel : 0198-24-7748

色鮮やかな描彩が印象的な佐藤忠雄さんのこけし。可愛らしいお顔と胴に入れられた菊模様の特徴です。目鼻を描くのは、決まって丑三つ時。魂を込めるのだそうです。こけしの他、木地師であったことから茶托や椀を挽く技術にも長け、ミニチュア茶器は必見です。



東北の郷土玩具として生まれたこけし。花巻のこけしは南部系に分類され、胴・顔・頭頂部に一切模様を施さない無彩であり、首がはめこみ式で頭がくらくらと動くことが大きな特徴です。その様子から「キナキナ」、特に花巻では「キックラボッコ」と呼ばれていました。無彩の「キナキナ」は乳児のおしゃぶりが発展したもの。

その後、他系統からの影響により、頭が動くという特徴を残したまま、描彩されたこけしが生まれました。江戸時代末期から明治時代初期に制作が始まったといわれています。

煤孫こけし 煤孫盛造さん 花巻市高松 26-35
Tel : 0198-31-2165



公式 HP

煤孫こけしは、煤孫盛造さんの祖父が 1900 年ごろに始められ、現在 3 代目。宮沢賢治の世界観で創作されたデクノボウこけしは岩手県産の木材が使用され、全国の方々に愛されています。



花巻傘

滝田工芸 滝田信夫さん

祖父・滝田五郎八さんが始められ、現在 3 代目。岩手県では最盛期に 120 軒以上、花巻にはその約半数の傘屋がありましたが、昭和 36 年以降、滝田工芸一軒のみになりました。昔から分業制を取っていた和傘製作ですが、滝田信夫さんはその全行程を行える全国でも貴重な職人さんです。

現在は、年間 100 本ほどの和傘を製作。また、お土産品やインテリアとして、ミニ傘や壁掛け傘、ランプシェードも製作しています。

滝田工芸 花巻市高松 26-3
Tel : 0198-31-2128



成島和紙

成島和紙は、東和町成島の地で 350 年以上もの歴史を誇り、「北限の和紙」と呼ばれる花巻市無形文化財です。現在、青木一則さんただ一人がその技法を受け継いでいます。楮（こうぞ）の皮とノリウツギを原料として寒中に漉きあげる和紙は、素朴で味わいのある独特の紙質で、今なお全国各地に多くの愛好家がいらっやいます。

成島和紙工芸館 花巻市東和町北成島 5 区 202
Tel : 0198-42-3948

青木一則さん



さき織り

江戸時代中期、「もったいない」の精神から生まれたさき織り。寒冷な東北地方では、衣類に使っている綿や絹が大変高価で貴重だったことから、使い古した布を紐状に裂いて織り、新たな布として再生させる技術が生まれました。当時は農閑期の収入源にもなる女性たちの手仕事で、機織り機は嫁入り道具のひとつでした。木綿などの繊維がより簡単に手に入るようになった現代では、芸術的な創作活動としても織られるようになりました。

花巻市では高機、地機という昔ながらの織り機を使い、広く地域の方々が織り、技術や文化をつないでいます。

高機

「鶴の恩返し」に出てくる機織り機。足のペダルを踏み、トントンと箆（おさ）を叩き織っていきます。花巻の広い地域で使用されています。



地機

5 世紀ごろ、中国から入ってきたと言われる原始的な機織り機。花巻では湯口地区の方々が地機を使用し織っています。



さき織り体験

さき織伝承館 ※要予約
花巻市東和町下浮田 4 区 83-5
Tel : 0198-44-3125

石鳥谷農業伝承館
花巻市石鳥谷町中寺林第 7 地割 28-1
Tel : 0198-45-6566